

ハム年表

- 1831 → フラーティ(イギリス), 電磁誘導の法則をつくる。
 1837 → モールス(アメリカ), モールス符号を完成。
 1864 → マクスウェル(イギリス), 電磁波の存在を理論的に証明。
 1888 → ヘルツ(ドイツ), 電磁波の存在を実証。
 1896 → 通信省, 無線電信の研究に着手。
 1901 1212→マルコニー(イタリア), 大西洋横断無線電信の実験に成功, 発信したのは "S" で, 鳥につけたアンテナを使って受信。
 1902 0213→八甲田山, 死の行軍。陸軍第8師団青森歩兵第5連隊の199名が凍死。
 ...→ケーリー(アメリカ), ヘビサイド(イギリス)がほとんど同時に電離層の存在を予言。
 1904 0208→日露戦争勃発。
 ...→フランクリン(イギリス), 二極真空管を発明。
 1905 0630→弱冠26歳のアインシュタインが「特殊相対性理論」を完成, 物理学の常識をくつがえす。
 1906 1003→ペルリンでの第1回国際無線電信会議で, 国際遭難信号 "SOS" の採用決まる。
 1908 05→わが国初の海岸局, 銀子無線電信局開局(JCS)。
 1912 0414→イギリスの豪華客船「タイタニック号」(4万6329トン), 氷山に激突して沈没。1513名の犠牲者。
 0730→明治天皇崩御。
 1914 0728→第1次世界大戦勃発。
 0518→ARRL設立。会長にH.P.マキシム氏が就任。ARRLから "List of Stations" が発行される。収録局数400。
 1915 1110→大正天皇即位。
 1917 ...→アームストロング(アメリカ), スーパー・ヘテロダイエン受信方式を発明。
 1922 1114→イギリスBBCラジオ放送開始。
 ...→地場康氏(発明研究所), わが国初の無線雑誌「ラヂオ」[A5判30ページ前後]を発刊(1923年9月号)で廃刊。関東大震災で発明研究所が焼失したため)。
 1923 0901→関東大震災勃発。死者、行方不明者14万2800人余。0414→安藤博氏(安藤研究所、東京市四谷)に私設実験局JFWAが免許。
 1924 05→雑誌「無線と實驗」(無線實驗社)創刊。
 1925 0408→通信省岩瀬無線局(J1AA), 80m(3.5MHz)A1でUGRW(アメリカ)と交信。日本と外国との最初の短波通信。秋→櫻井謙一氏と笠原功一氏が阪神間20kmを中波(300m, 1000kHz)で交信成功。
 1926 0127→イギリスでスコットランド人の電気技師ペアードが世界初のテレビ放送公開実験に成功。
 0813→ハ木秀次、宇田新太郎の両氏がハ木アンテナを発明(特許取得)。
 0815→わが国の初のコードブック([CALL LIST]1st Edition)配布。29局のCall, Name, Addressを掲載。
 1927 0520→リングバーグ、ニューヨーク一帯間、大西洋横断無着陸飛行に成功。
 1928 0511→ニューヨークでテレビ放送スタート。週3回、1回30分。
 1929 06→独立した機関誌として「JARLニウス」を関西で発行。
 1930 0102→笠原功一氏(J3DD)が、日本で初のWAC No.339を取得。
 1931 1018→アメリカの発明王、エジソン死去。学歴は小学校へ3ヵ月かよっただけ、あとは独立独歩だった。
 0403→JARL第1回全国大会を名古屋市中村公園内記念会館で開催。出席者30余名。
 1932 0515→五・五一事件。青年将校が決起、犬飼義首相を暗殺。

- 1933 1014→日本最初のYL杉田千代乃氏(J1DN・前年逝去された杉田俊夫氏の実妹)開局。
 1934 12→JARLのIARU加盟がカレンダーNo.13で承認される。当時のJARL正会員数は152名。
 1935 02→湯川秀樹、「中間子」の存在を予言。
 1020→斯波邦夫氏(J2HJ)、世界第3番目の28MHz WACを完成。
 1936 0226→二・二六事件。青年将校ら1400人、政治中枢を制圧。
 08→ドイツ・アマチュア無線連盟DASDが、創立10周年とベルリン・オリンピックを記念したコンテストを開催。
 1937 1213→日本軍、南京を占領。
 ...→DXに関する新しい賞状The DX Century Club(DXCC)がQST9月号に発表される。
 1938 ...→堀口文雄氏(J5CC)がわが国初のDXCCおよびWASを完成。続いて大河内正陽氏(J2JJ)も完成。戦前はこの二人のみ。
 02→エジプト・カイロで第5回国際無線通信会議が開催され、アメリカ大陸を除く地域で7MHzバンドの削減決定。
 1939 0903→英仏、ついにドイツに宣戦布告。第2次世界大戦勃発。
 1940 ...→堀口文雄氏(J5CC)はわが国最初(世界で2番目)のWAZを完成。このWAZ完成者は太平洋戦争前には世界で3人のみ。
 1941 1208→午前3時19分(現地時間7日午前7時49分)、日本海軍、真珠湾を攻撃。太平洋戦争に突入。
 05→「JARL NEWS」No.93から「日本アマチュア無線聯盟報」と改題。これは英語使用不許可のため、ちなみに「ラヂオの日本」は電波日本に、「オーム」は電気日本に改名。
 1942 0418→B25、日本本土を初空襲。
 1943 0903→イタリア、無条件降伏。
 1944 0606→連合軍、ノルマンディー上陸。「史上最大の作戦」始まる。
 0630→日本の都市で学童疎開始まる。
 1945 0310→B29による東京大空襲。死者5万人以上、重軽傷者11万人以上、全焼26万户、罹災者約100万人……。
 0815→天皇自らの「玉音放送」。太平洋戦争終結。
 0918→閣議決定で国民の短波受信の禁止が解除に。
 1946 0101→天皇、「人間宣言」を発す。
 0328→アマチュア無線の再開についてGHOへ請願。JARL側からは八木秀次氏、大河内正陽氏ほかが出席。
 09→「CQ ham radio」[発行・科学新興社、編集人・大河内正陽氏、発行人・五味直氏、発行部数・約3000部、B5判32頁、定価4円・送料30銭]、JARL機関誌として創刊。No.2→5円は10-11月合併号で、12月は休刊となり、3号雑誌の危機に。
 1947 1017→50MHzで沖縄のJ9AAOとチリのCE1AHが交信(約1万6800km)。
 ...→CQ誌はNo.3→7(1月)、No.4→12(2月)、No.5(3月)→No.7(5月)→15円と発行されるが、つぎはしばらく中断する。
 ...→東京・神田駅から小川町にかけて、ラジオ部品専門の露店が軒を並べる。
 1948 11→SWLナンバーの割当を開始。
 0815→大韓民国成立。
 0909→朝鮮民主主義人民共和国成立。
 1949 1103→湯川秀樹、中間子の研究でノーベル賞受賞。
 09→SWL活動を促進するため、受信カードコンクールが開催され、家紋をデザインした東京の桑原武夫氏

- (JAPAN-192, JA1CR)のカードが1等に。
 ...→CQ誌7月号(No.22)で、表紙に受信機の写真が登場。
 1950 0625→朝鮮戦争勃発。
 05→JARL創立以来最初のアワードHAC(Heard All Continents)認定制。
 ...→CQ誌12月号(No.38)40頁、55円。
 1951 0908→アメリカ・サンフランシスコで、連合国48カ国と日本の対日講和と条約締結。
 06→アマチュアバンドの割当が決定。
 0626→第1回アマチュア無線技士国家試験が実施された。合格者は1級47名、2級59名。(~27日)
 1952 0405→日本航空の「もく星号」、三原山に墜落。
 0729→全国の免許申請者30名に予備免許。7MHz:1級はA1→3波、A3→2波、2級はA3のみ。
 1123→再開初日のJARL総会、東京工大内の喫茶室「角笛」で開催。
 1953 0201→NHK TV(東京)が本放送開始(1日4時間の放送で、受信料月額200円)。
 01→JARL会費年500円、半年300円。
 0505→第1回QSOパーティが行われた。優勝者は7MHzが堀原郁夫氏(JA6AK)、14MHzが浜赳夫氏(JA8AA)、21MHzが海老沢政洋氏(JA1DM)、28MHzは該当なし、50MHz・144MHzは山口意彌氏(MA1DL)。
 0513→3.5MHzのスポット割当追加。
 1954 0926→青面連絡船「鮫丸」転覆。犠牲者1183名。
 05→「CQ ham radio」が6月号(No.67)からCQ出版株式会社(小沢久昭社長)の発行となる。
 07→春日無線工業(トリオ→ケンウッド)からRF1段、IF2段、9球受信機キット9R42JK(1K)登場。1万3500円。
 1955 0117→アメリカの原子力潛水艦ノーチラス号、試運転。
 0201→出力50W以下の局なら移動運用可能となり、免許状に「移動範囲、全国一円並びに付近の海上および上空」という項目が入るようになる。
 1001→雑誌形式ではなく、単独の「コールブック」(CQ出版社)誕生。
 1956 1218→日本、80番目の国連加盟国に。
 0122→根岸忠氏(JA1AHS)が50MHzでVK4NG(オーストラリア)と交信。これが超短波による初の海外とのQSO。
 1108→南極観測船「宗谷」が、作間敏夫氏(JA1JG)を含む53名を乗せ南極へ出発。
 1957 1004→ソ連の人工衛星、スプートニク、軌道に乗る。
 07→女性ハムのクラブJLRS(Japan Ladies Radio Society)設立。
 1958 0309→本州と九州を結ぶ関門トンネル開通。
 01→坂野泰正氏(JA1ANO)が2N247を使用した50MHz 1石送信器で約3kmの交信に成功。
 0506→電波法の一部を改正する法律が公布され、電信級・電話級アマチュア無線技士の資格が誕生。II級は電話級に5年間の移行期間。
 また、従事者免許が终身免許に、免許手続や検査も簡便化された。加えて、目の不自由な人もアマチュアへの道が拓かれた。
 1959 0410→皇太子・美智子、ご成婚。
 0402→初の電信・電話級アマチュアの国試を施行。受験者総数1万6791名、うち電話級受験者1万5288名。
 0628→社団法人JARL創立総会、東京・日本赤十字社講堂で開催。初代会長に櫻井謙一氏(JA1FG)、副会長に原昌三氏(JA1AN)が就任。終身会員制を制定、会費1万円で終身会員に。
 1960 0825→ローマ・オリンピック開幕。アベベ登場。
 0328→JARL会長・櫻井謙一氏(JA1FG)に「郵政業務への積極的協力者」として紺綬褒章授与。
 04→NHK教育テレビ、毎週火曜日午後7時から「アマチュア無線講座」を放送。司会は須藤典子氏(JA1CYA)。
 ...→八重洲無線から初のSSBユニット、A型SSBジェネレーター登場。
 ...→CQ誌12月号(No.155)、136頁、100円。
 1961 0120→ケネディ、第35代アメリカ大統領に就任。
 0410→2級は全アマチュアバンドが、電信・電話級も21、28MHzバンドの使用が可能に。
 07→JARL会費、月75円、終身会員1万5000円。
 ...→トヨマ電気商会から50MHz帯送信機TEC-6、144MHz帯送信機TEC-2登場。
 1962 0503→東京・三河島で列車二重衝突。死者160人。
 0812→堀江謙一、ヨットで單独太平洋横断に成功。
 04→JARL理事会で「CQ ham radio」を「JARL監修」とすることを決定。
 0729→東京・新宿厚生年金会館でアマチュア無線再開10周年記念式典と祝賀会を開催。(~31日)
 1963 1122→ケネディ大統領、ダラスで暗殺される。
 0207→2月7日発行の「JARL NEWS」No.257からタブロイド新聞形式で月3回発行に。
 10→新2級・移行の最後の国試。
 1964 1010→東京オリンピック開幕。
 0204→CQビル1階にハムショールームが開設され、メーカー・製送信機、受信機などを常設展示。
 0404→1880kHzの割当で決定。
 1965 0318→ソ連の宇宙飛行士、人類初の宇宙遊泳に成功。
 0309→アマチュア通信衛星オースター号、アメリカから打ち上げ。これは144MHzでの能動衛星で中継能力を備えていたものの、14日間で機能を停止、アメリカ、ヨーロッパで数枚が交信できただとどまる。
 0602→電波法の一部改正により、養成課程講習会制度が発足。
 1966 0318→全日空機、東京湾に墜落。死者133人。
 0305→BOAC機、富士山に墜落。死者124人。
 01→3ヵ月間、NHKテレビ技能講座でアマチュア無線が取り上げられる。
 0313→初の養成課程講習会開催。
 0609→1.8MHz帯に代わり1.9MHz帯として1907.5~1912.5kHzが割当に。A1 500W以下、移動局50W以下。
 1967 ...→井上電機製作所からSSB受信機IC-700R、SSB送信機IC-700T登場。
 ...→八重洲無線からHF帯SSBトランシーバーFTDX-400、FTDX-100、送信機FLDX-400、受信機FRDX-400登場。
 1968 1210→3億円事件起きる。
 03→荒川賀氏(JA1AKA)と渡辺千晴氏(JH1DWJ)の間(1.5km)で430MHzカラーテレビ実験成功。
 0412→オーストラリア・シドニー市で初のIARU第3地域会議が開かれ、日本代表として櫻井謙一氏(JA1FG)、溝口院氏(JA1BK)が出席。(~15日)
 1969 0720→アポロ11号月面に着陸。アームストロング船長、オルドン飛行士、「静かな海」に立つ。
 0220→養成課程講習会制度が軌道にのり、アマチュア局の数が増大。コールサインは「JH1」のつぎは「JR1」に決定。
 1970 0314→「人類の進歩と調和」をテーマに、大阪万国博開催。
 0331→赤軍派、日航機よどを乗っ取北朝鮮に亡命。
 1125→三島由紀夫(JA1AK)と自衛隊市ヶ谷駐屯地で自殺、45歳。
 0401→JARL発行のアワードに「WACA賞」「HAJA賞」、それに「430MHz賞」を追加制定。
 0921→電波法施行規則改正が告示(第816号)され、アメリカ合衆国との協定による外国人の運用がクラブ局に可能に。
 ...→八重洲無線から名器の誉れ高いトランシーバーFT-101登場。100W型で13万8000円。
 1971 0730→岩手・零石上空で全日空機と自衛隊機が衝突。旅

客機の162人死亡。

0317→日本における初の国際会議、第2回JARL第3地域会議、東京・全共連ビルで開催。(~21日)
0901→JARL、V-UHF帯利用区分(チャネルプラン)を施行。
1130→アマチュア無線係のセットアップ、バーツなどのメーカー・31社により日本アマチュア無線機器工業会(JAIA)設立。会長には中野英男氏(トリオ(株))が就任。

1972 0203→札幌冬季オリンピック開催。

0929→田中角栄首相と周恩来首相が共同声明に調印。日本中国正常化。
0515→沖縄が本土復帰し、プリフィックスKR8はJR6に、0701→ITU主管管会議で国際的な周波数表示としてきめられたヘルツ(Hz)が採用されたが、サイクル呼称になれたアマチュアの間ではしばらく混戻が……。

1973 0410→SSTV(スロースキャンテレビジョン)申請中の河田至弘氏(JA3AIS)、成川雅彦氏(JA3FW)、早川誠亮氏(JA3FFX)ら24局に免許が、1001→「JARL NEWS」、新聞形式(3月回発行)から雑誌形式となって月1回発行に。

1974 1014→「燃える男」長島茂雄退引。

0510→JARLで保証認定を行っている10W以下のアマチュア局無線設備について、JARLが承認した機種については保証願書中の送信機系統図(ブロック図)の記載が省略できることに。

1975 0430→解放勢力サイゴンに入城。ベトナム戦争終結。
0117→3.5MHz帯に加え、3793→3802kHzの追加割当で決定(郵波陸第2号通達)。

0412→第1回全日本ハムベンション、富士山麓朝霧高原リーパークで開催。(~13日)
12→日本のアマチュア局免許数32万304局。
---->井上電機製作所から50MHz帯SSBハンディ・トランシーバーIC-502登場。

1976 0101→JARLは新V-UHF帯使用区分の第1段階を実施し、50および144MHz帯のFMナロー化(40→16kHz)をはかる。
0522→JARLは創立50周年を記念して沖ノ鳥島DXベデイション(団長・有坂芳雄氏JA1HQGほか9名)を実施。
7J1Rの呼出符号により73カントリー、8931局と交信。折からの200カ国問題もあり、一般にも話題に。(~6月7日)

1977 0307→JARL会員数10万8268名。

0729→JARL、V-U1000、1200/2300/5600MHz各アワードの発行開始。
0923→過去2回の全日本ハムベンションを継承し、JARL主催により第1回アマチュア無線フェスティバルが東京・中央区晴海の東京国際貿易センター南館において開催され、27万6000人が来場。記念局JU1HAMが運用され、24日には小笠山郵政大臣が視察。(~25日)

0923→アマチュア無線再開25周年記念式典を東京・中央区のホテル浦島において開催。功労者55名を表彰。
1978 0101→JARL制定V-UHF帯使用区分改正の144MHz帯が第2段階に移り、FMのナロー化(40→16kHz)による変分などを改正。

0224→熊本の高校生、田尻憲輝氏(JH6TEW)がダーウィンのVK8GBと144MHzにおける日本一オーストラリア間の初交信に成功。

0303→50MHz帯で前田幸一氏(JA5CMO)と南米チリのCE3OKが交信。サイクル19以来約20年振りに南米との交信に成功。

0401→JARLのQSLカード転送制度が改正され、外国ステッカーの廃止、取扱うカードの規格の明確化、非会員宛QSLカードの取り扱い変更などを実施。

0501→電波関係手数料が改訂され、アマチュア無線関係も約3倍に値上げ。
---->通信機の専門メーカー、日本無線からHF帯SSB送信

機NSD-505、受信機NRD-505登場。

1979 0101→都対象のJCGアワード発行開始。
0207→JARL会員が10万人を突破(この日の現在会員数10万2046名)。
0630→1.2GHzのビーコン電波、三重県朝熊山のJA21GYより発射開始。

1980 0701→JARL会費、月額700円、終身会員8万円。
1201→これまでのCQ出版社による発行に代わり、局名録はJARLより14分冊型式での発行に、まず関東版を発行。
---->サイクル21がピークに。

1981 0729→ギリギリ、チャールズ皇太子とダイアナ妃が結婚。
0315→レピーター研究委員会(委員長・藤室衛氏JA1FC)の第1回会合を開催。
0702→郵政省が周波数割当原則を改正。WARC新バンドのアマチュアへの割当で決定。

0821→JARLの「初級アマチュア無線点字教科書」を郵政省が認定。

1982 0205→日航機が異常操縦で東京湾に墜落、死者24人。“逆噴射”が流行語に。
0305→東京・豊島区のJARL事務局に設置されたわが国初のレピーター局JR1WA(430MHz帯)が、落成検査に合格、免許された。

0713→電話級、電信級アマチュア無線技士の操作範囲が拡大され、FAX、RTTY、SSTV、ATVなどの画像通信も可能に。
---->CQ誌(No.438)、530頁、480円。

1983 0329→1200MHz帯初のレピーター局(JR1WB、東京都千代田区「霞ヶ閣ビル」)が免許。
0708→郵政省告示により空中線電力100Wまでの送信機に関するJARLの保証認定が拡大された。

---->日本マランツから144MHz帯FMモービル・トランシーバーC8900G、430MHz帯FMモービル・トランシーバーC7900G登場。ともに高さわずか31mm。

1984 0227→JARLが100Wまでの保証認定の受付を開始。
0307→JARL会員数13万1262名。

0701→郵政省が3局体制に改組され、電波監理局は電気通信監理局と改称。

1985 0812→午後6時56分26秒、羽田発大阪行きの日航ジャンボ機が群馬県・多野郡上野村の御厨農山に墜落、炎上、520人死亡。女性4人が奇跡の生還。

0101→郵政省の省令改正により、電信級アマチュア無線技士国家試験の電気通信技術が受信のみに、また、電話級アマチュア無線技士有資格者は学科が免除になり、JARLの養成課程講習会の電信級移行コースも電気通信技術のみに。

1986 0528→長年アマチュア無線の普及・育成に尽くした功績によりJARL会長・原昌三氏(JA1AN)に藍綬褒章。

0701→JARLの養成課程講習時間が短縮され、法規12時間、工学10時間(電話級標準コース)に。
1106→郵政省、1200MHz、2400MHz帯におけるアマチュア・テレビ通信としてのF9、F9電波の使用を認可。

1987 0401→国鉄が分割・民営化。11のJR法人が発足。
0401→アマチュア無線国家試験受験料、1アマ4000円、2アマ3400円、電信級・電話級2300円に改定。落成および更検査手数料も同時改定。

1001→電波法が改正され、オーバーパワーに対する罰則が「1年以下の懲役又は20万円以下の罰金に処する」に強化される。

1101→富士山麓・朝霧高原グリーンパークで第1回FOXテリング全国大会開催。中国、韓国などから外国人選手も参加。特別記念局8J2FOXも開局・運用(10月24日~11月1日)。

1988 0101→CQ誌創刊500号を記念してCQ出版社が“CQ

WORKED GRID LOCATOR AWARD(CQ WGLA)”を発行。受付開始。

0401→JARL制定「アマチュアバンド使用区分」のうち、HF帯についてはこの日から実施。
1118→第1、2級アマチュア無線技士國家試験のうち、電気通信術は受信のみに変更に。

1989 0107→昭和天皇崩御。

0101→JARL制定の「アマチュアバンド使用区分」の50MHz~1200MHz帯の一部を改正、また2400MHz~10.4GHz帯の使用区分を制定したものをこの日から実施。
0830→4月16日、世界一小さなヨット「マーマイド号」でサンフランシスコを出帆した堀江謙一氏(JR3JJE)が、無事西ヨットハイヤーへ帰航。

1990 1003→午前7時をもって、東西ドイツの統一が実現。

0207→JARL会員数15万8401名。
0401→(財)無線技術者国家試験センターと(財)日本電波協会が統合し、財団法人・日本無線協会発足。

0423→関東電気通信監理局が新しいプリフィックス7K1AAA→7K1BZCを発給。
0501→電波法の一部改正が実施され、電信級が第3級アマチュア無線技士に、電話級が第4級アマチュア無線技士と名称変更されるが、第3級には新たに18MHzバンドの運用と25Wまでの出力が認められることに、また、アマチュア無線技士国家試験申請書・従事者免許・再交付・訂正申請書の様式も変更。

1991 0310→台湾の連盟CTAR(Chinese Taipei Amateur Radio League)中華民国業余無線電促進会設立。JARL会長・原昌三氏(JA1AN)らも列席。

0723→「アマチュア無線局の呼出符号の指定基準」が一部改正。関東エリアの新コールサインは“7K2~7N4”に。

1101→(財)日本アマチュア無線振興協会→JARD(会長・原昌三氏JA1AN)、技術基準適合認定の業務・メーカーなどのアマチュア無線機器に対する技術基準)を開始。

1992 0912→日本人最初の宇宙飛行士・毛利衛氏7L2NJYを乗せたスペースシャトル「エンデバー」打上げ。

0120→これまですべてのアマチュア無線局を収録した局名録を発行がされ、「92年度版からJARLはJARLに登録している会員局のみを収録した」とJARL会員局名録」を刊行。

0420→電波法施行規則及び免許手続規則の一部改正で、添付書類の写しの提出と備え付けが不要に、また移動する局の送信装置に添付する無線局免許証が6月1日から発給されることに、さらに免許申請書類などがA4判になつたほか、工事設計の記載項目も一部改正に。

11→50MHz帯の50Wを超える局の設置、変更申請も(財)日本アマチュア無線振興協会(100Wまで)、または各電気通信監理局で受付られることに。

1993 0120→ビル・クリントンが第42代アメリカ大統領に就任。
0401→電波利用料制度導入。アマチュア無線局は年間500円納めることに、前納も可能。

0630→郵政省発表によると、わが国の総無線局数は833万4659局。うちアマチュア局は129万8300局。
0907→JARL会員数、19万人を突破、19万445名に。

0917→無線従事者規則の一部が改正され、JARDが行ってる養成課程の時間数が第3級51時間→43時間、第4級22時間→14時間と短縮に。

1994 0723→向井千秋さんらを乗せたスペースシャトル・コロンビア号帰還。

0401→無線従事者規則の一部が改正され、養成課程に使用的な教科書の郵政大臣の認定が廃止、また無線従事者免許証を失った場合の届け出(失走届の提出)が不要に。

0520→JARDがかなてから要望していた3.8MHz帯の拡大についての告示が改正され、“3747~3754kHz”的7kHzが追加され、即日施行された。

1995 0117→早朝0546、淡路島付近の深さ20kmを震源とするマグニチュード7.2の地震発生。神戸、芦屋、西宮市や淡路島などで家の倒壊や火災が相次ぎ、約30万人が避難所生活に。死者、行方不明者5000人を越す。
0320→都内の営団地下鉄で車内に持ち込まれた不審物からサリが発生。死亡、重軽傷者多数を出す大惨事に。
0201→JARL神大震災救援金受付開始。JAIAではJARLと協力してアマチュア無線ハンディ機200台を被災地に緊急輸送。
0331→郵政省によると、携帯・自動車電話機の売り切り制導入、デジタル方式携帯・自動車電話サービスの開始、携帯・自動車電話の料金値下げなどにより、電気通信事業用無線局の大幅な伸びがあり、無線局数がはじめて1000万局を突破、1083万局に。

1106→郵政省は、アマチュア無線技士の検査範囲を拡大することを官報に告示(施行は平成8年4月1日)。これによって無線設備の空中線電力がつぎのように2倍に引き上げられる。

・第2級アマ 現100W → 200W
・第3級アマ 現 25W → 50W
・第4級アマ 現 10W → 20W(ただしHFは10W)

1996 0519→本誌創刊600号が発売。
1997 0224→ゲストオペ制度がこの日、施行された。これにより、アマチュア局の開設の有無にかかわらず、無線従事者の資格を持っていれば、他のアマチュア局を訪問してゲスト運用することが可能に。

0401→以前、指定されていたコールサインが(申請時)現在あいている場合は、指定されていた本人限り旧コールサインが復活できるようになった。空き状況は、JARDで調べてもらうことができる。

0401→「アマチュア業務に使用する電波の型式及び周波数の使用区分」(無線局運用規則第258条の2に基づく郵政省告示)が改正、施行された。主な変更点は以下。「広帯域デジタル」区分の拡大、144MHz帯及び430MHz帯でFM系モードの1帯域が900kHz拡大、5.6GHzおよび10.1GHzでレピーター用周波数が設定。

1001→アマチュア無線局の免許申請手数料・無線従事者手数料・無線従事者免許関係手数料が改訂され、大幅減額された。

1998 05→アマチュア局が公衆回線網を使って接続することに、問題がない旨の郵政省の見解が出された。ただし通信の相手方は、アマチュア局であることは変わらない。

0801→ペルーとの相互認証が施行されることにより、日本のアマチュア無線家はペルーで個人局を開設・運用することができ、また同様にペルーの資格を持つアマチュア無線家も日本で運用できるようになった。

1999 05→U-SHF帯の免許(操作)範囲が、拡大されることになった。またそれに伴い、それまでの郵政省本省での許可から地方電監でも免許されることに。

0528→コールサイン再割り当りの対象外とされていたJAブリティッシュについても、再割り当りでの対象になることがこの日、郵政省から発表された。

1101→道路交通法の改正により、車内の機器操作に制限が設けられた。これにより、アマチュア局が車内でハンディ・トランシーバーを手に持つて運用するといったことは違反となる。